



次世代を担う学生と企業が協働し、企画・制作。 CSRへの取組みを記載した「Eblo Report」をリリース。

このプロジェクトは、ニッセイエブロ株式会社が加盟する国連グローバルコンパクトへ提出する活動報告書（COP [Communication on Progress]）の制作にあたり、武蔵野大学環境学部（矢内秋生 教授/学部長）佐々木重邦ゼミの活動として、同学部学生（女子学生3名；3年生）とニッセイエブロとの協働により企画～制作を行いました。

昨今の厳しい就活状況の中、学生が日頃の研究を実践の場として、本プロジェクトに参加することは、学生、大学にとっても有益な機会であり、企業にとっても「次世代の人材育成」に貢献できる取組みになると考えます。

このような取組みについて、学生の役割はとかく、お手伝い的な作業になりがちと聞かれます。本プロジェクトは、全工程にわたって学生が企画・提案し、制作のディレクションを行うスタイルで進行。10月には、コンセプトメイキングからラフデザイン、レイアウト構成、そして社員へのインタビューやアンケートによる調査を通しての取材、原稿案の執筆まで全て学生主導で行いました。

尚、本活動は「文部科学省 産学連携による実践型人材育成」「ものづくり技術者育成」の補助金による武蔵野大学環境学部のテーマ「エコ・マニュファクチャリング・エキスパート育成事業」の一環として行われています。



佐々木ゼミの主要テーマは環境経営施策です。前期ゼミは、学生が各自環境経営施策の選定、調査・検討、プレゼンを行い、知識の共有化を目標に、また後期ゼミは、共有化した環境経営施策の知識を基に活動テーマの設定、計画立案、実行、活動の評価・見直し、いわゆるPDCAサイクルを回すことを目標にしました。ちょうど後期のゼミが始まる前にニッセイエブロ株式会社から今回のCOP制作プロジェクトのお話を頂きました。「ECO REPORT WAY 21」活動の中心メンバーで、これまでの分析・評価の活動からステップ・アップして自ら報告書を作成したいという強い思いを持った3名が手を挙げました。9月28日のキックオフから活動を開始し、ニッセイエブロ株式会社の方々と連携して作業を行い、COPの完成に至りました。今回のCOP制作プロジェクトは学生が主体的にアイデアを出し、企業の方々と連携して、責任を持ってプロジェクトをやり遂げるという貴重な体験により学生の自信になり、成長を促しました。また企業と連携した新たなゼミ活動の形を示すことができたと思います。このような機会を与えていただいたニッセイエブロ株式会社に感謝いたします。（武蔵野大学 環境学部 教授 佐々木重邦）